



歌川豊国を名宣る刺画家は前後四人あつて
 其二代目は初代の巻子で、初代の号は豊屋、
 俗に謂ふ本御豊之國であるのが、今尚書に家
 必外の人の中に、正當には三代目である。筆
 井戸豊國と二代目が、思つてゐるのが多い
 といふのは、二代目の履歷が何故か善く傳は
 つておらぬからである。ところが、その中、
 馬史には、文節、意刺馬にも、その關係のある
 問題であるから、調べ得るものなるを思ひ之

No. 1

つて、嘗て、其名繪と豊国と其門下で、
 此の探究を誠々たるが、ありを、今度、
 おもて七、三君の二代目は、
 同書より二代目、調には、
 代目の版画を、おのり、持つた、
 利のものを、
 て、
 間に深い、
 櫻川、
 二、
 二、
 二、

No. 2

推測の、
 のある、
 の、
 いた、
 た、
 按、
 考、
 二、

No. 3



後の歴史を「浮世無常考式」の餘り、**精確**なと
 りつないものばかりか、**主なる考據**と云つてゐる
 ためん、傳へられた事、疑はし、**點**が随分多い。
 按ずれば、此七八名の傳の如く、**相切**する、**命**の
 なる、**此七八名の傳**と云ふ、**相切**する、**命**の
 た後、**此七八名の傳**と云ふ、**相切**する、**命**の
 があつた、**此七八名の傳**と云ふ、**相切**する、**命**の
 しあつた、**此七八名の傳**と云ふ、**相切**する、**命**の

（梅鶴）

二代舟に寄せて、**此七八名の傳**と云ふ、**相切**する、**命**の
 ひたひた、**此七八名の傳**と云ふ、**相切**する、**命**の
 第一は利が調へた、**此七八名の傳**と云ふ、**相切**する、**命**の
 寺の眞相、**此七八名の傳**と云ふ、**相切**する、**命**の
 義母であつた、**此七八名の傳**と云ふ、**相切**する、**命**の
 加再婚、**此七八名の傳**と云ふ、**相切**する、**命**の
 所の調へ、**此七八名の傳**と云ふ、**相切**する、**命**の
 て、何等もの新事業が、**此七八名の傳**と云ふ、**相切**する、**命**の
 第三は一統齊一、**此七八名の傳**と云ふ、**相切**する、**命**の

おと連を、**此七八名の傳**と云ふ、**相切**する、**命**の

十四年十一月十日

遠